

## 教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの意味 豊かな創造力育成のために -

別府大学学長 西村 明

この研修モデルカリキュラム開発プログラムは、独立行政法人教員研修センターからの委嘱事業であり、別府大学が大分県教育委員会のご協力・支援をえて実施されるものであります。今日、教育の現場で最も強く求められているものは国語と数学の基礎学力を高めることであると言われております。これらは、あらゆる学問領域の学習において基礎となるもので、創造力の豊かな社会を形成する上で不可欠な課題です。とくに国語については、テレビ、インターネットなどのお陰で視聴覚的な意味において力がついているように思われますが、それらは既成の、時には型にはまった知識であり、豊かな創造力・思考力を高める上で十分であるとは言えません。やはり自ら調べ、読み、書き、話すことのなかで新たな事柄を発見し、また考えるなかで他の人とは異なる創造力・構成力・思考力が身につくように思われます。

別府大学は、大分県教育委員会及び委員長からサゼッションを得て、そして文部科学省のサイバーキャンパス整備事業の一環として設置されましたメディア教育・研究センターを拠点にして児童・生徒の調べ学習を通して国語力を高める事業を行うことにしました。そこではまず、映像やメディアの手段を遠ざけるのではなく、これまで以上に児童・生徒に近づけるとともに、その限界を認識させ、さらに図書館や博物館に行き、なまの資料や文書を調べ、自らの頭の中に調査対象の見えないものを創造し、構成し、思考する力を養います。そして、さらに大切なことは、その創造・構成・思考を他の人にわかりやすく説明することです。プレゼンテーション能力こそが、とくに今日国語力の向上に結びついた育成の課題であります。

さらにこの開発プログラムでは、先生が児童・生徒に教えるのではなく、彼らと共に調べ、学び、自らの教育指導方法を再検討し、改善していこうとする点を重視しています。先生は児童・生徒の調べ学習をサポートするが、調べ学習を通して自らの指導力を高めなければなりません。教えるということでは控えめですが、教育指導方法の開発という点では中心にならなければなりません。しかしながら、今回だけの研修において、開発プログラムが完成されるわけではありません。今回の経験を社会的に点検・評価されなくてはなりません。まず今回の児童・生徒と教師との相互学習の経験を記録し、整理し、この成果をこれに参加していない小学校・中学校の先生に再度教育現場で検討・評価していただき、教育現場で共有化できる教員研修モデルカリキュラムを開発しようとしています。

学ぶことは楽しくなければなりません。先生が楽しくなければ、児童・生徒は絶対に楽しくありません。今回の教員研修プログラムのなかで児童・生徒が新たな喜びを見出し、先生たちが教えることに更なる自信と喜びを見出されることを期待しております。